

県立普通科高等学校通学区域全県一区制度の検証の中間報告

- 1 県立普通科高等学校通学区域全県一区制度の検証に向けた取組状況 P 1
- 2 関係資料
- 資料 1 県内中学生の進学状況の整理
- 1-1 地域別県立全日制普通科進学者の割合 P 1 2
(平成16年度～平成27年度推移)
- 1-2 県内外高等学校等への進学状況 P 1 3
(平成16年度～平成27年度推移)
- 資料 2 (中学3年生とその保護者対象) P 1 5
『中学3年生の進路選択に関するアンケート』
結果(中間まとめ)
- 資料 3 (高校生とその保護者対象) P 2 3
『魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート』
結果(中間まとめ)

県立普通科高等学校通学区域全県一区制度の検証に向けた取組状況

県立普通科高等学校の通学区域全県一区制度は、多様化する生徒のニーズに対応し自分に合った高校を主体的に選択できるようにするとともに、特色ある学校づくりを一層推進することをねらいとして、平成18年度に導入しました。

制度導入後10年が経過したことを契機に、県教育委員会として、平成28年度に制度の検証をすることとしています。

今回の中間報告では、制度導入前後の県内中学生の進学状況の整理、生徒や保護者へのアンケート結果等の中間まとめを示します。

<参考> 普通科通学区域と普通科高校数の変遷

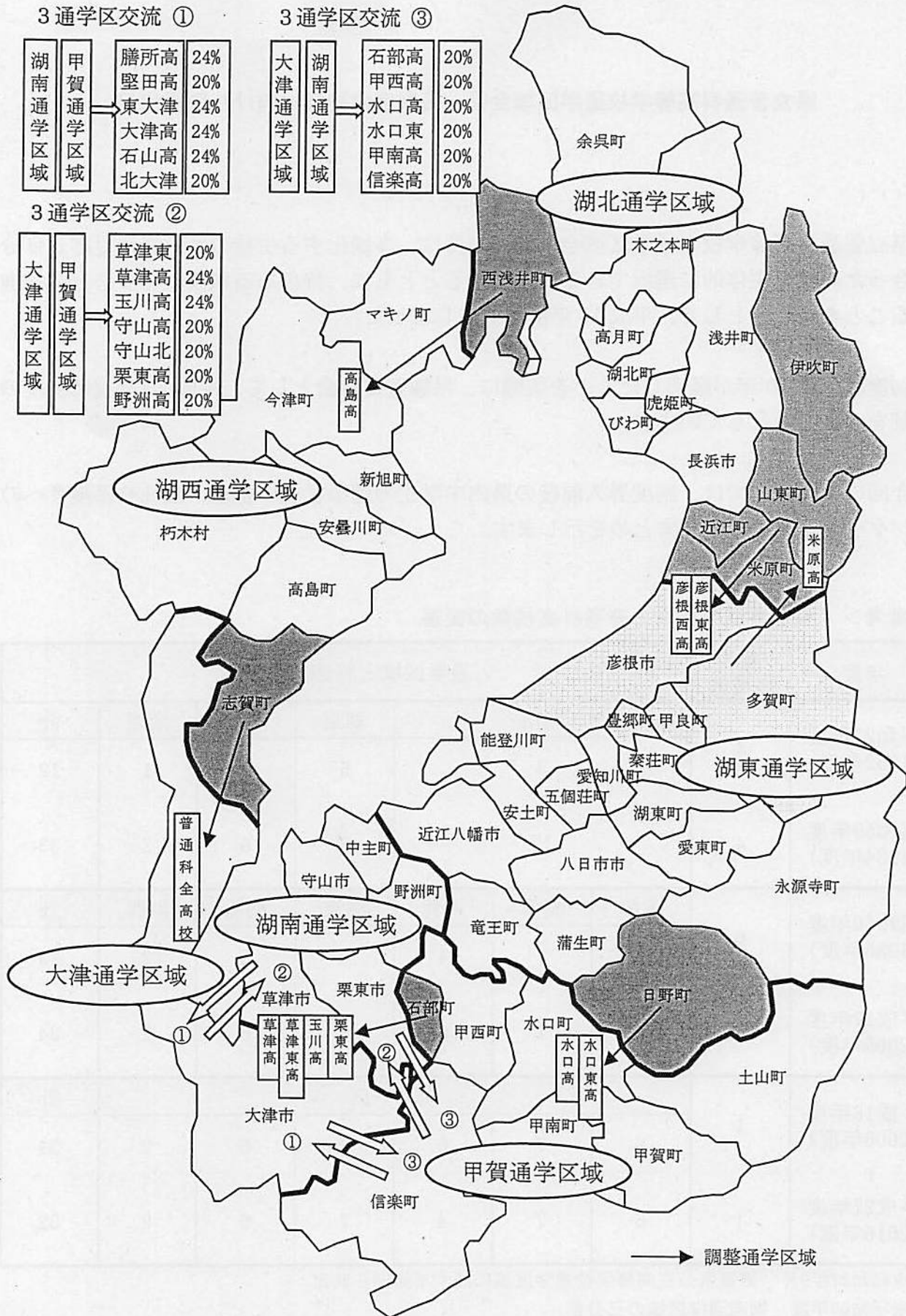
年度	通学区域数	通学区域と普通科高校数							
		湖南			湖東	湖北	湖西	計	
昭和27年度 (1952年度)	4	3			5	3	1	12	
昭和59年度 (1984年度)	4	17			8	6	2	33	
昭和60年度 (1985年度)	6	大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西	計	
		6	7	4	8	6	2	33	
平成17年度 (2005年度)	6	6	7	6	7	6	2	34	
平成18年度 (2006年度)	1	全県一区							計
		6	7	6	7	6	2	34	
平成27年度 (2015年度)	1	6	7	4	7	6	2	32	

※昭和27年9月「滋賀県公立高等学校通学区域に関する規則」制定

※昭和60年度 湖南通学区域の三分割

※平成18年度 全県一区

県立全日制高等学校の普通科通学区域（昭和60年度(1985年度)～平成17年度(2005年度)）



※昭和60年度以前は湖南、湖東、湖北、湖西の4通学区制であり、その後、湖南通学区を大津、湖南、甲賀に3分割し、経過措置として地域間の交流枠（募集定員に対する割合）を設定した。

1 県内中学生の進学状況の整理

全県一区制度導入前（平成16年度、平成17年度）と、制度導入後の10年間（平成18年度～平成27年度）の県内中学生の高等学校等への進学状況を整理しました。

地域別県立全日制普通科進学者の割合（平成16年度～平成27年度推移）【資料1-1】
 県内外高等学校等への進学状況（平成16年度～平成27年度推移）【資料1-2】

(1) 旧通学区域外への進学者の推移

- 制度導入前は、6つの通学区域があり、区域外の県立普通科高等学校への進学者は、調整通学区域と湖南3通学区域間の交流に限定され、普通科進学者の11%～12%であった。
- 制度導入後は、通学区域による受検の制限がなくなり、従来から交流できた旧通学区域外の高等学校への進学者は、普通科進学者の15%～18%に増加した。
- また、新たに受検が可能となった高等学校への進学者は、普通科進学者の5%～8%となっている。

(入試年度)	6通学区域		全県一区									
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
県立普通科進学者A(人)	8,240	7,488	7,501	7,131	7,113	6,822	7,288	6,863	7,039	7,136	7,307	7,212
旧調整通学区域・湖南3通学区域間交流の進学者B(人)	929	904	1,130	1,068	1,081	1,109	1,221	1,176	1,212	1,194	1,291	1,318
割合B/A(%)	11.3%	12.1%	15.1%	15.0%	15.2%	16.3%	16.8%	17.1%	17.2%	16.7%	17.7%	18.3%
新たに受検が可能となった高等学校への進学者C(人)			387	356	456	431	422	467	487	581	618	555
割合C/A(%)	-	-	5.2%	5.0%	6.4%	6.3%	5.8%	6.8%	6.9%	8.1%	8.5%	7.7%

※ 平成18年3月に大津市と合併した滋賀郡志賀町は大津地域として算出している。

(2) 地域別県立全日制普通科進学者の推移

- 中学校が所在する6つの地域（制度導入前の6つの通学区域）ごとに、中学生がどの地域にある県立普通科高等学校へ進学しているかを整理した。【資料1-1】
- 制度導入後は、通学区域による受検の制限がなくなり、すべての地域で、地域内にある高等学校へ進学する割合が減少し、隣接する地域の高等学校へ進学する割合が増加している。

※県立全日制普通科進学者に対する割合（全県一区導入前H16-17 → 導入後H24-27の比較）

中学校所在	地域内普通科進学者割合の変化	主な隣接地域の進学者割合の変化
大津地域	88.2% → <u>76.8%</u> △11.4ポイント	湖南地域 + 9.7ポイント
湖南地域	83.1% → <u>65.4%</u> △17.7ポイント	大津地域 + 11.5ポイント
甲賀地域	84.2% → <u>74.5%</u> △9.7ポイント	湖南地域 + 6.0ポイント
湖東地域	89.1% → <u>71.7%</u> △17.4ポイント	湖南地域 + 8.2ポイント
湖北地域	95.1% → <u>89.0%</u> △6.1ポイント	湖東地域 + 4.7ポイント
湖西地域	99.3% → <u>87.6%</u> △11.7ポイント	大津地域 + 6.4ポイント
県全体	88.3% → <u>74.7%</u> △13.6ポイント	

(3) 県内外高等学校等への進学者の推移

- 制度導入前後の県外高等学校等進学者の割合を比べると、地域別では、大津、湖西地域は増加し、湖南、甲賀、湖東、湖北地域は減少している。県全体では、減少している。【資料1-2】

※高等学校等進学者に対する割合（全県一区導入前H16-17 → 導入後H24-27の比較）

中学校所在	県外高校等進学者割合の変化（うち全日制高校）
大津地域	10.6% → 12.9% + 2.3ポイント（+ 2.0ポイント）
湖南地域	9.6% → 7.2% △ 2.4ポイント（△ 2.3ポイント）
甲賀地域	5.5% → 4.1% △ 1.4ポイント（△ 1.5ポイント）
湖東地域	4.5% → 3.1% △ 1.4ポイント（△ 1.2ポイント）
湖北地域	3.6% → 2.1% △ 1.5ポイント（△ 1.2ポイント）
湖西地域	4.5% → 5.7% + 1.2ポイント（+ 0.6ポイント）
県全体	6.9% → 6.4% △ 0.5ポイント（△ 0.5ポイント）

2 生徒や保護者へのアンケートの結果（中間まとめ）

平成 28 年 9 月～10 月に、市町立中学校の 3 年生とその保護者、県立全日制高等学校の 1、2 年生とその保護者を対象としたアンケート（抽出調査）を実施しました。

中学生とその保護者へのアンケート	：市町立中学校 39 校 2,192 人回答【資料 2】
高校生とその保護者へのアンケート	：県立全日制高校 48 校 10,275 人回答【資料 3】

（1）高等学校の情報をどこから得るか。

- 高等学校の情報は、高校での体験入学、学校説明会や、中学校の先生や中学校での進路相談から得るとい回答が多い。

<アンケート結果>	高校の情報を主にどこから得るか。(3 つ以内)
①中 学 3 年 生	高校での体験入学等 65%、中学校 48%、家族・親戚 46%
②中 学 保 護 者	高校での体験入学等 67%、中学校 56%、学習塾 37%
③普 通 科 高 校 生	中学校 58%、高校での体験入学等 54%、家族・親戚 33%
④普通科高校保護者	高校での体験入学等 56%、中学校 52%、学習塾 30%

（2）高校選択のとき何を重視するか。

- 高等学校を選択するとき、成績面を重視するという回答が最も多い。（高校保護者については選択肢が異なる。）成績面以外では、普通科の高校生やその保護者は、通学時間を重視するという回答も多い。

<アンケート結果>	高校選択のとき主に何を重視するか。(4 つ以内)
①中 学 3 年 生	自分の成績 59%、高校卒業後の進路 43%、学科、学習内容 41%、部活動 36%、通学時間 33%、自分の適性 32%
②中 学 保 護 者	子どもの成績 67%、高校卒業後の進路 58%、学科、学習内容 56%、子どもの適性 45%、通学時間 41%、校風やイメージ 30%
③普 通 科 高 校 生	自分の成績 62%、通学時間 37%、校風やイメージ 29%、部活動 27%、高校卒業後の進路 27%、自分の適性 19%
④普通科高校保護者	子どもの希望 69%、子どもの成績 50%、通学時間 40%、高校卒業後の進路 34%、校風やイメージ 32%、学科、学習内容 23%

(3) 高校選択のとき誰の意見を参考にするか。(中学生とその保護者のみ)

- 高等学校を選択するときに、中学生は家族・親戚の意見を、保護者は中学校の先生の意見を参考にするという回答が最も多い。

<アンケート結果>	高校選択のとき誰の意見を参考にするか。(2つ以内)
①中学3年生	家族・親戚 67%、中学校の先生 59%、学習塾 34%
②中学保護者	中学校の先生 80%、学習塾 44%、家族・親戚 38%

(4) 自宅から在籍する高校までの通学時間(高校生のみ)

- 普通科高校生の自宅からの通学時間は、30分未満と30分以上1時間未満という回答がともに約40%となり、1時間以内が約80%を占めている。

<アンケート結果> 自宅から高校までの通学時間(普通科高校生)				
30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 1時間30分未満	1時間30分以上 2時間未満	2時間以上
38.1%	41.1%	17.0%	3.1%	0.3%

(無回答0.3%)

(5) 滋賀県では現在、県内すべての高等学校の中から受検校を選ぶことができるようになっている。このことについてどう思うか。選んだ理由があれば記入する。

(参考) 平成17年度までの入学者選抜では、県立全日制普通科高校の通学区域を、大津、湖南、甲賀、湖東、湖北、湖西の6区域とし、原則として、区域内から高校を選び受検する制度としていた。

- 中学生、高校生、保護者とも、県内すべての高等学校の中から受検校を選べることはよいとする回答が最も多く、通学区域を制限しない制度(全県一区制度)を肯定的に捉えている。

<アンケート結果>	県内すべての高校から受検校を選べることについて
①中学3年生	肯定95%(よい79% おおむねよい16% あまりよくない2% よくない2%)
②中学保護者	肯定91%(よい57% おおむねよい34% あまりよくない6% よくない1%)
③普通科高校生	肯定96%(よい82% おおむねよい14% あまりよくない2% よくない1%)
④普通科高校保護者	肯定92%(よい59% おおむねよい33% あまりよくない6% よくない1%)

(無回答①2% ②2% ③1% ④2%)

< (5) の主な肯定的な理由 >

- ・(中学生) 自分の行きたい高校を県内で選べるのは自由で可能性が増えてよいと思う。
- ・(中学生) 多くの地域の人と関わりを持つことで自分自身の見解を広めることができ、更に自分の適性に合った高校を選ぶことで自分の成長につながると思うから。
- ・(中学保護者) 選択肢が広がるとともに、自身また家族納得のもと、自分の力にあった高校を選択できる。
- ・(中学保護者) 受検校を選ぶ幅が広がったことで、高校を決める＝自分の人生を自分が決めるという人生のひとつの選択を悩んだり、考えたりできるよい機会だと思えます。それを乗り越えて、自分の決めた道(高校)が決まった時、本人の達成感や充実感や責任など得るものはとても大きいと思えます。
- ・(高校生) 居住地によって受検校を制限されたくない。
- ・(高校生) 狭い地域での学びは学力低下につながると思う。知らない人との友人関係を築き上げることは、グローバル化が進み人との関係を築くということが重要視される今、とても役立つ。ただ、遠方から通っている生徒への配慮はもっとあってもよいのではないか。
- ・(高校保護者) 行きたい学校は居住地により制限されるべきではない。この学校で学びたいという本人の意思が尊重されるべき。
- ・(高校保護者) 地域に関係なく選べるのは学力や部活等での選択肢も増えるので良い。それぞれの学校が魅力的になれば問題も少なくなるのでは。

< (5) の主な否定的な理由 >

- ・(中学生) 自分の行きたい高校に人が集まり、倍率が高くなってしまうから。
- ・(中学保護者) 自宅から近い学校を選びたいのに、その学校が便利な立地条件のため、倍率がすごく上がってしまい合格できないことが起きると困ります。
- ・(中学保護者) 選べる事は良いのだけど、その分、自宅から遠く、通学費が高い、時間がかかる問題もあるので、良いとはあまり思えない。
- ・(高校生) 南部に人気が集まり北部の高校に活気がなくなる。
- ・(高校保護者) 自由に選択できる点では良いが一部の学校の倍率が高くなりすぎ競争が激化している。遠くの高校を選ばざるを得ない子もいる。
- ・(高校保護者) 選択の範囲が広すぎてかえって学校選びが難しい。交通費の負担が重くなる。誰もが大きな負担なく希望の学校に行けるよう考えてほしい。

3 市町教育委員会、学校への聞き取りの概要

平成 28 年 9 月～11 月に、市町教育委員会教育長 (19 市町)、県立高等学校長 (45 人) に、県立普通科高等学校通学区域全県一区制度の検証に関わり、中学生の高校選択についての聞き取りを実施しました。

(1) 市町教育委員会教育長の主な意見

- ・他市町から受検する生徒が多く希望する地元の高校へ進学できない場合が多い。
- ・普通科高校への選択肢の幅が広がり、高校でハイレベルな部活動を求め、遠方へ進学する生徒もいる。
- ・全県一区になることにより、生徒の進路選択の幅が広がり好ましい。
- ・この 10 年で制度は県民に広く周知され定着したと感じる。大きな混乱もなく進路指導が進められている。
- ・普通科については、都市部への志願者増加により、地域の学校の活力維持が年々難しくなりつつある。
- ・概ね 75% の生徒が市内の県立高校に進学していることは、普通科通学区域の全県一区制度が実施されたことにより、中学生の主体的で多様な進路選択が可能になったことを受けての進路状況であると認識している。しかし、市外からの進学者数が少なく、市内の県立高校は定員に満たない状況となってしまう。
- ・少数ではあるが、人間関係の課題から同じ高校への進学を希望しない生徒は、全県一区になったことにより、新しい交友関係が築けることもある。

(2) 県立高等学校長の主な意見

- ・全県から意欲ある生徒が入学するようになった。特色ある学校づくりとして、大学との連携授業や、海外での語学研修などを行っている。いろんなことを経験し、いろんなことに目を向けてほしい。遠くから通学している生徒は、予習、復習、部活動など大変かもしれない。
- ・部活動を頑張りたい生徒が普通科にも全県から入学できるようになった。遠くから模範となる生徒が来ている。体験入学には全県から今年度は 2,000 人以上の参加があった。さらに文武両道の学校づくりを進めたい。
- ・全県一区制度は部活動の活性化につながった。もともと地元の生徒も多かったが、サッカーや野球などで生徒が集まるようになった。全国で勝てるチームをつくるなら、全県一区でよいと考えている。
- ・中学生が高校を選ぶことは大切であると考え。地域との結びつきを強めて、地域密着の学校づくりをしている。児童館での紙芝居、駅前プランターの世話、生徒会のボランティア、地域の歴史を学ぶ探訪などで地域に愛着をもってもらいたい。

- ・専門学科はもともと全県から生徒が集まっていたが、普通科の全県一区にあわせて旧通学区域外の高校を受ける動きが活発になった。いろんなことにチャレンジし全国で活躍できる生徒を育てるため、起業家育成プログラムや海外ホームステイなどを実施している。遠くから通学する生徒もおり、始業時間を遅くしたり下校時間にも配慮している。
- ・地域外の高校に進学する生徒が多くなり、学力面や大学進学の実績の低下への対応が必要となった。少人数授業や0限、7限の授業で学習指導を強化するとともに、大阪大学や京都大学との連携も進めている。また、地元中学校の校長や市教育委員会事務局と定期的に意見交換して、地域の生徒を育てる学校づくりの努力を続けている。
- ・いろんな地域の生徒がミックスして活性化している。全県一区で地域の生徒が大津市の高校に流れた面はあるが、中学校の校長には「来た子は必ず伸ばす」と言っている。大学教授を招いた講演、課題研究、土曜授業、週3日7限授業、早朝や休日の自習できる態勢づくりなど生徒を伸ばす取組を進めている。
- ・高校段階で他地域に進学した生徒は、地域への愛着を持たなくなる心配がある。高校3年生一人ひとりに面談をして、将来のことなどを聞きながら高校生活を頑張るように伝えている。
- ・全県一区制度導入前には交流枠があったため、制度導入後もあまり影響はない。
- ・全県一区となっても、通学時間のことから入学する生徒に大きな変化はない。

<参考> 平成27年度 中学生の高等学校体験入学実施状況（県立全日制高校44校）

実施日数（のべ日数 114日 1校平均2.6日）

	実施しない	1日実施	2日実施	3日実施	4日実施	5日実施
校数	0	5	18	13	6	2

中学3年生参加人数（のべ人数 30,521人 1校平均694人）

	0～499人	500～999人	1,000～1,499人	1,500人以上
校数	17	19	5	3

4 今後の検証の進め方

中学生の進学状況の整理、生徒や保護者へのアンケート、市町教育委員会や学校等への聞き取りをしました。今後は、有識者からの意見もいただいたうえで、総合的に検討し、全県一区制度の成果や課題を明らかにします。必要に応じて、さらに学校関係者からの聞き取りを進め、年度末に検証結果としてまとめます。

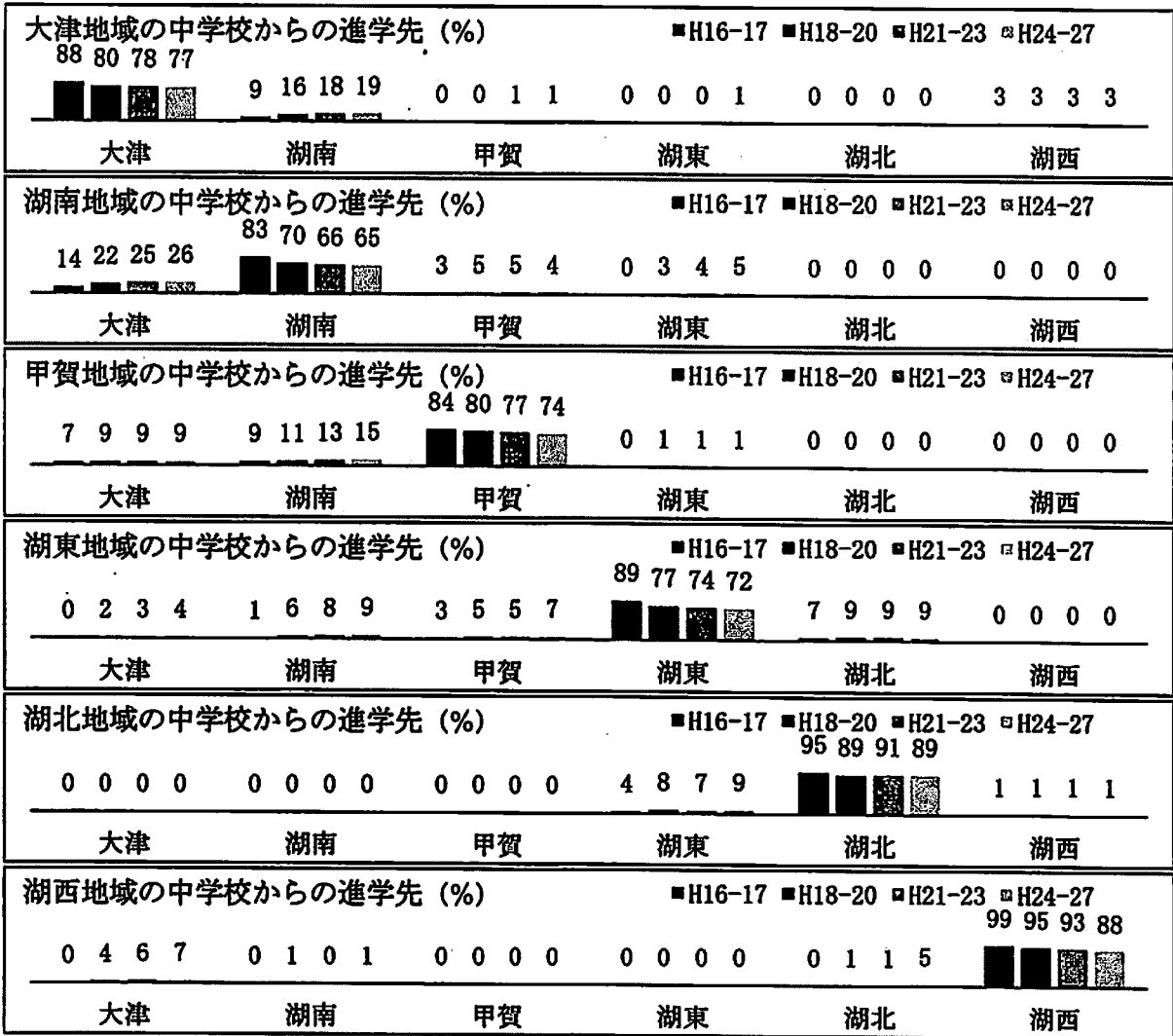
關係資料

【資料1-1】

地域別県立全日制普通科進学者の割合（平成16年度～平成27年度推移）

中学 所在	年度	普通科 進学者	進学先の高校所在地域					
			大津	湖南	甲賀	湖東	湖北	湖西
大津	H24-27	100.0%	76.8%	18.7%	0.7%	0.9%	0.0%	3.1%
	H21-23	100.0%	78.2%	17.7%	1.1%	0.4%	0.0%	2.5%
	H18-20	100.0%	80.0%	15.9%	0.3%	0.4%	0.0%	3.3%
	H16-17	100.0%	88.2%	9.0%	0.2%	0.1%	0.0%	2.6%
湖南	H24-27	100.0%	25.5%	65.4%	4.3%	4.5%	0.2%	0.0%
	H21-23	100.0%	25.1%	66.1%	4.7%	3.8%	0.1%	0.0%
	H18-20	100.0%	22.4%	69.8%	4.5%	3.1%	0.1%	0.0%
	H16-17	100.0%	14.0%	83.1%	2.6%	0.2%	0.0%	0.0%
甲賀	H24-27	100.0%	9.3%	15.0%	74.5%	1.2%	0.1%	0.0%
	H21-23	100.0%	8.8%	13.1%	77.2%	0.9%	0.0%	0.0%
	H18-20	100.0%	8.9%	10.6%	79.5%	1.0%	0.0%	0.0%
	H16-17	100.0%	6.8%	9.0%	84.2%	0.0%	0.0%	0.0%
湖東	H24-27	100.0%	3.8%	9.0%	6.6%	71.7%	8.9%	0.0%
	H21-23	100.0%	2.8%	8.1%	5.5%	74.3%	9.3%	0.0%
	H18-20	100.0%	2.4%	6.4%	4.9%	77.5%	8.8%	0.0%
	H16-17	100.0%	0.2%	0.8%	2.6%	89.1%	7.2%	0.0%
湖北	H24-27	100.0%	0.3%	0.5%	0.0%	8.8%	89.0%	1.4%
	H21-23	100.0%	0.4%	0.3%	0.0%	7.5%	90.7%	1.2%
	H18-20	100.0%	0.3%	0.4%	0.0%	8.4%	89.5%	1.3%
	H16-17	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%	95.1%	0.8%
湖西	H24-27	100.0%	6.9%	0.7%	0.0%	0.0%	4.9%	87.6%
	H21-23	100.0%	6.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.6%	92.8%
	H18-20	100.0%	4.3%	0.5%	0.1%	0.0%	0.5%	94.5%
	H16-17	100.0%	0.5%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	99.3%

※県外、過年度、特別支援学校からの進学者を含まない。全県一区制導入前（H16-17）であっても、調整学区等により地域外からの進学があるため0%とならない場合がある。



○すべての地域で、全県一区制導入後に隣接地域の普通科への進学者が増えている。
 ○全県一区制導入後も、旧通学区域内の普通科高校への進学者は、大津、湖北、湖西地域では8割程度、湖南、甲賀、湖東地域では7割程度を維持している。

県内外高等学校等への進学状況（平成16年度～平成27年度推移）

(1) 平成27年度地域別高等学校等進学状況

(人)

中学 所在	高校等 進学者	県内 高校等 進学者	全日制				定・通・ 特支	県外 高校等 進学者	全日制	定・通・ 高専・特支
			県立普通	県立専総	地域内県立	県内私立				
大津	3,297 100%	2,831 85.9%	1,500 45.5%	554 16.8%	1,551 47.0%	642 19.5%	135 4.1%	466 14.1%	401 12.2%	65 2.0%
湖南	3,399 100%	3,184 93.7%	1,772 52.1%	554 16.3%	1,390 40.9%	658 19.4%	200 5.9%	215 6.3%	183 5.4%	32 0.9%
甲賀	1,534 100%	1,466 95.6%	921 60.0%	362 23.6%	877 57.2%	87 5.7%	96 6.3%	68 4.4%	31 2.0%	37 2.4%
湖東	3,878 100%	3,752 96.8%	1,741 44.9%	1,214 31.3%	2,317 59.7%	586 15.1%	211 5.4%	126 3.2%	86 2.2%	40 1.0%
湖北	1,667 100%	1,618 97.1%	993 59.6%	413 24.8%	1,217 73.0%	161 9.7%	51 3.1%	49 2.9%	32 1.9%	17 1.0%
湖西	476 100%	450 94.5%	285 59.9%	125 26.3%	360 75.6%	31 6.5%	9 1.9%	26 5.5%	16 3.4%	10 2.1%
全体	14,251 100%	13,301 93.3%	7,212 50.6%	3,222 22.6%	7,712 54.1%	2,165 15.2%	702 4.9%	950 6.7%	749 5.3%	201 1.4%

※高校等進学者は、高等学校（全日制、定時制、通信制）、特別支援学校、高等専門学校への進学者を表す。

(2) 高等学校等進学者に対する割合（平成16年度～平成27年度推移）

(%)

中学 所在	高校等 進学者 年度	県内 高校等 進学者	全日制				定・通・ 特支	県外 高校等 進学者	全日制	定・通・ 高専・特支
			県立普通	県立専総	地域内県立	県内私立				
大津	H24-27	87.1	46.5	16.0	48.0	20.7	3.8	12.9	11.5	1.4
	H21-23	88.0	46.7	17.3	50.3	20.1	4.0	12.0	10.5	1.5
	H18-20	88.3	49.0	17.6	53.0	17.3	4.5	11.7	10.4	1.3
	H16-17	89.4	50.7	16.5	58.5	18.2	3.9	10.6	9.5	1.1
湖南	H24-27	92.8	50.9	16.9	41.2	20.3	4.7	7.2	6.1	1.1
	H21-23	92.9	51.6	17.5	42.9	19.1	4.8	7.1	5.8	1.2
	H18-20	91.5	53.4	18.5	46.6	13.7	5.8	8.5	7.2	1.3
	H16-17	90.4	54.8	17.6	54.5	13.6	4.4	9.6	8.4	1.2
甲賀	H24-27	95.9	59.8	23.6	56.1	7.0	5.5	4.1	2.5	1.6
	H21-23	96.0	60.9	24.1	59.1	6.8	4.2	4.0	2.5	1.6
	H18-20	95.4	64.1	23.0	62.8	4.7	3.6	4.6	3.1	1.5
	H16-17	94.5	68.3	19.1	67.4	3.2	3.8	5.5	4.0	1.6
湖東	H24-27	96.9	45.0	31.3	59.7	16.1	4.5	3.1	2.1	1.0
	H21-23	97.0	43.5	33.3	61.0	16.7	3.6	3.0	2.0	1.0
	H18-20	97.0	44.3	33.0	62.5	16.6	3.0	3.0	2.0	1.0
	H16-17	95.5	44.0	32.8	66.9	16.0	2.7	4.5	3.3	1.2
湖北	H24-27	97.9	59.6	26.4	74.5	8.7	3.3	2.1	1.4	0.7
	H21-23	98.1	59.9	25.7	75.5	9.2	3.4	1.9	1.3	0.5
	H18-20	97.9	61.2	26.0	75.9	7.9	2.8	2.1	1.5	0.6
	H16-17	96.4	59.2	27.8	78.2	7.4	2.1	3.6	2.6	0.9
湖西	H24-27	94.3	57.8	28.3	77.3	5.3	3.0	5.7	3.4	2.3
	H21-23	94.5	60.9	25.7	80.7	3.7	4.1	5.5	3.1	2.4
	H18-20	94.7	64.0	24.7	83.2	2.6	3.3	5.3	2.8	2.5
	H16-17	95.5	64.5	26.1	88.6	1.6	3.4	4.5	2.8	1.7
県全体	H24-27	93.6	50.5	22.9	54.7	15.9	4.3	6.4	5.2	1.2
	H21-23	94.0	50.7	23.9	57.0	15.4	4.0	6.0	4.8	1.2
	H18-20	93.7	52.4	24.2	59.7	13.2	4.0	6.3	5.1	1.2
	H16-17	93.1	53.3	23.5	65.0	12.8	3.4	6.9	5.7	1.2

○全県一区制導入前と比べて、県全体では、県内進学者が増え、県外進学者は減少した。地域別では、大津、湖西地域は、県外進学者が増え、湖南、甲賀、湖東、湖北地域は、県外進学者が減少した。

『中学3年生の進路選択に関するアンケート』結果（中間まとめ）

1 目的 県立普通科高等学校通学区域全県一区制度の検証に関わり、中学生の進路選択の状況を把握する。

2 対象 市町立中学校3年生とその保護者
(県内97校中の39校の各3年生1学級を抽出)

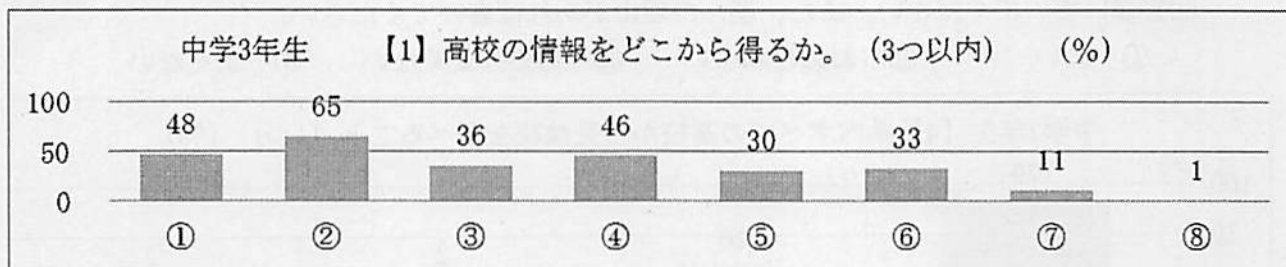
	対象者総数	回答数	回答率
中学3年生	1,226	1,171	95.5%
保護者	1,226	1,021	83.3%
合計	2,452	2,192	89.4%

3 期間 平成28年9月～10月

4 中学3年生アンケート結果

【1】あなたは高校の情報を主にどこ（誰）から得ていますか。次の中から3つ以内で選び、その番号を回答欄に書いてください。

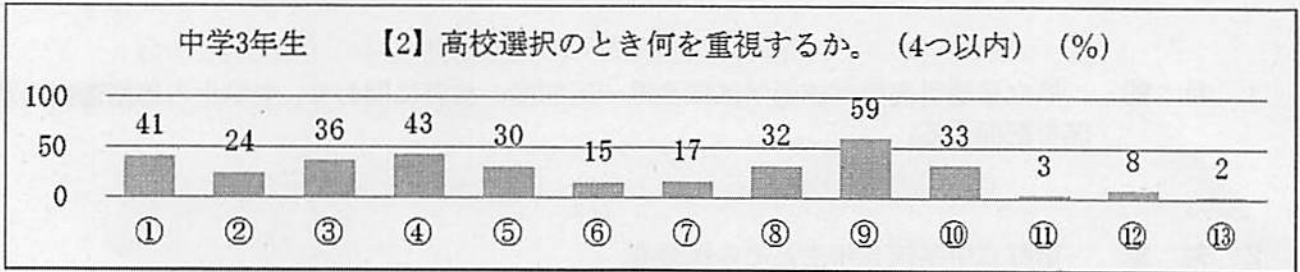
- | | |
|--------------------|---------------------------|
| ① 中学校の先生や中学校での進路相談 | ⑤ 友人・先輩 |
| ② 高校での体験入学、学校説明会 | ⑥ 学習塾 |
| ③ 高校のホームページ、パンフレット | ⑦ インターネット（高校のホームページ以外の情報） |
| ④ 家族・親戚 | ⑧ その他（ ） |



○ 高校での体験入学、学校説明会から高校の情報を得ている生徒が最も多く、中学校の先生や中学校での進路相談からも多くの生徒が情報を得ている。

【2】あなたは高校を選択するとき、主に何を重視しますか。次の中から4つ以内で選び、その番号を回答欄に書いてください。

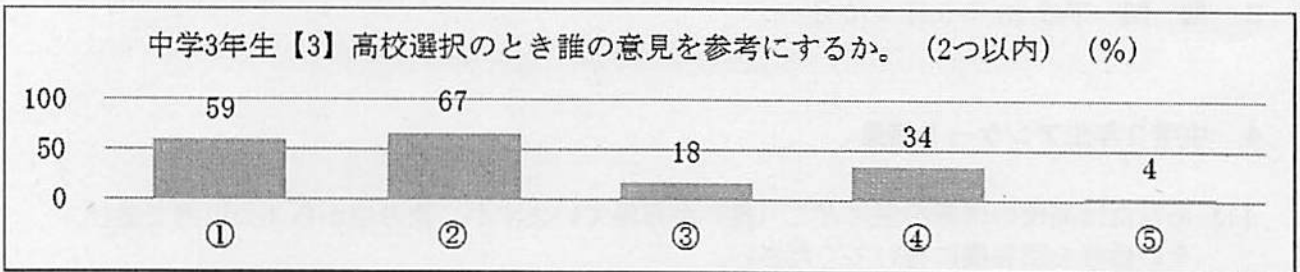
- ① 学びたい学科、学習内容
- ② 学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など）
- ③ 部活動
- ④ 高校卒業後の進路
- ⑤ 校風やイメージ
- ⑥ 学校の施設・設備（新しさや広さなど）
- ⑦ 高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境）
- ⑧ 自分の適性
- ⑨ 自分の成績
- ⑩ 通学時間（自宅からの近さなど）
- ⑪ 家族・親戚の出身校または在籍校
- ⑫ 友人・先輩と同じ学校
- ⑬ その他（ ）



○ 自分の成績も踏まえて、高校で学びたい内容や高校卒業後の進路等を考えて高校選択をしている生徒が多い。

【3】あなたは高校を選択するとき、主に誰の意見を参考にしますか。次の中から2つ以内で選び、その番号を回答欄に書いてください。

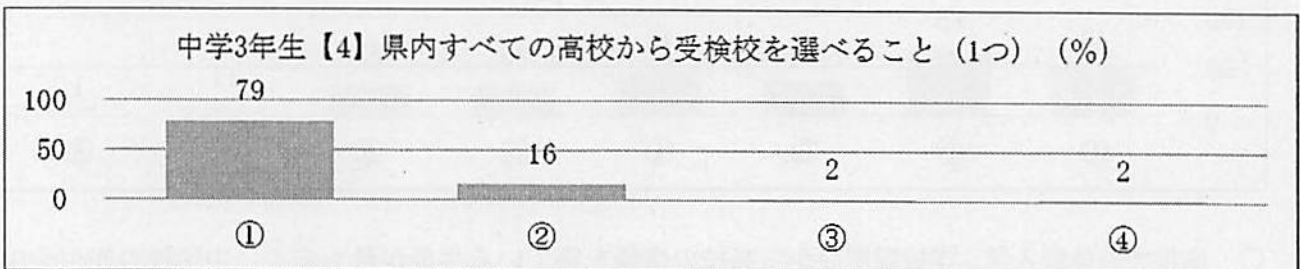
- ① 中学校の先生
- ② 家族・親戚
- ③ 友人・先輩
- ④ 学習塾の先生
- ⑤ その他（ ）



○ 中学校の先生や家族・親戚の意見を高校選択の参考にしている生徒が多い。

【4】滋賀県では現在、県内すべての高等学校の中から受検校を選ぶことができるようになっています。あなたは、このことについてどう思いますか。次の中から1つを選び、その番号を回答欄に書いてください。また、選んだ理由があれば書いてください。

- ① よい
- ② おおむねよい
- ③ あまりよくない
- ④ よくない



○ 約95%（①+②）の生徒が現在の通学区域の制度を肯定的に捉えている。

< 【4】 中学生徒①②の主な理由 >

- ・自分の行きたい高校を県内で選べるのは自由で可能性が増えてよいと思う。
- ・多少遠くても自分に合った高校へ行かないと学習意欲もなくなるし、本人が楽しめないと思うから。
- ・いろいろな高校が増えて、選べる高校も増えるので、自分に合った高校が見つかるかもしれないのでよいと思う。
- ・自分と全然違う場所に住んでいる人とも友達になれるから。
- ・自分の行きたい高校の視野が広がるし、その中でも自分に合った高校を選びやすいと思うから頑張りやすいと思う。
- ・自分の成績に合った高校を選ぶことができるし、選択の幅が広いから。
- ・自分が行きたいと思う学校に行けたり、その学校を卒業した後どのような職業につけるかを自分で考え、自分で自分の進路を見つけていくことができると思うから。
- ・自分の行きたい高校に行けるし、また、行きたい就職先や大学があるから。
- ・いろんな中学校から生徒が来ることで、多くの人と接することができるし、高校の選択肢が広がって良いと思う。
- ・多くの地域の人と関わりを持つことで自分自身の見解を広めることができ、更に自分の適性に合った高校を選ぶことで自分の成長につながると思うから。
- ・自分の行きたい高校に行けるし、学力、部活動など自分のしたいことができるので良いと思います。
- ・自分のやりたいスポーツが強い高校に進学できるのはよいことだと思う。
- ・自由に選択できるところはとても良い。そうすると、各校の学力などが向上できるが過疎地域の高校の人気やレベルが下がるのは良くない。
- ・登校にかかる時間が多少長くても、その人の進路の可能性があるなら、県内すべてから選んでも良いと思うから。

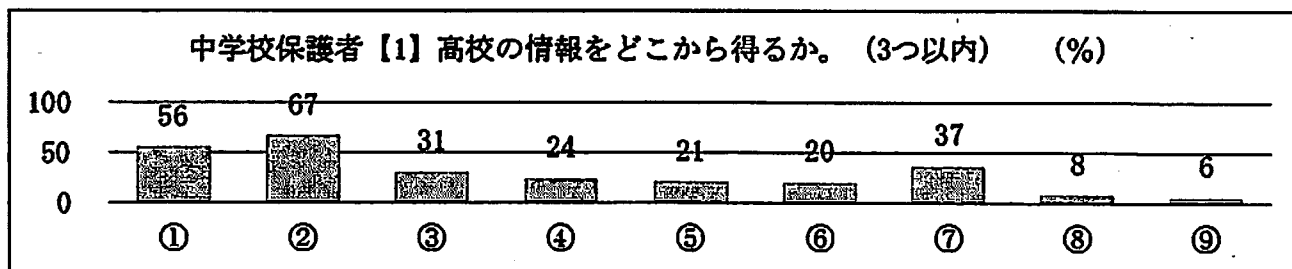
< 【4】 中学生徒③④の主な理由 >

- ・通学時間が増える事。
- ・自分の行きたい高校に人が集まり、倍率が高くなってしまうから。
- ・地域別に分けて、どの高校にも均等に行くようにして、落ちる人をなくしてほしい。
- ・そこしか行けないほうが、プレッシャー少ないから。

5 中学校保護者アンケート結果

【1】あなたは、高校の情報を主にどこ（誰）から得ていますか。次の中から3つ以内で選び、その番号を回答欄に書いてください。

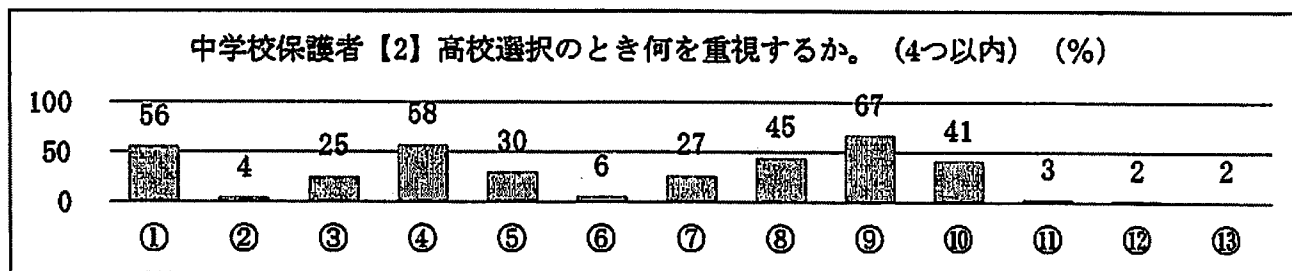
- | | |
|--------------------|---------------------------|
| ① 中学校の先生や中学校での進路相談 | ⑥ お子様の友人・先輩 |
| ② 高校での体験入学、学校説明会 | ⑦ 学習塾 |
| ③ 高校のホームページ、パンフレット | ⑧ インターネット（高校のホームページ以外の情報） |
| ④ お子様本人 | ⑨ その他（ ） |
| ⑤ 家族・親戚 | |



○ 高校での体験入学、学校説明会から高校の情報を得ている保護者が最も多く、中学校の先生や中学校での進路相談からも多くの保護者が情報を得ている。

【2】あなたは、お子様が高校を選択するとき、主に何を重視しますか。次の中から4つ以内で選び、その番号を回答欄に書いてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ① 学びたい学科、学習内容 | ⑧ お子様の適性 |
| ② 学校行事（文化祭、体育祭、修学旅行など） | ⑨ お子様の成績 |
| ③ 部活動 | ⑩ 通学時間（自宅からの近さなど） |
| ④ 高校卒業後の進路 | ⑪ お子様の家族・親戚の出身校または在籍校 |
| ⑤ 校風やイメージ | ⑫ お子様の友人・先輩と同じ学校 |
| ⑥ 学校の施設・設備（新しさや広さなど） | ⑬ その他（ ） |
| ⑦ 高校の立地（最寄り駅の近さや周辺環境） | |



○ 子どもの成績も踏まえて、高校で学びたい内容や高校卒業後の進路等を考えて高校選択をしている保護者が多い。

- ・通学区域をつくると本当に受きたい学校を受けにくくなるので、現在の方がよいと思います。決まった区域にとどまるより、いろんな地域の人たちと知り合い、接していく方が、いろんな刺激を受けられてよいと思います。
- ・受検校を選ぶ幅が広がったことで、高校を決める＝自分の人生を自分が決めるという人生のひとつの選択を悩んだり、考えたりできるよい機会だと思います。それを乗り越えて、自分の決めた道(高校)が決まった時、本人の達成感や充実感や責任など得るものはとても大きいと思います。
- ・子どもの視野が広がり選択することができるので、本人の希望がかなえられる高校へ行かせてあげられると思います。
- ・大津区域の高校に志望が集中しているため、大津に居住している生徒にとっては、県内全域から受検校を選べる現状は、大津区域の希望校への合格が難しくなる可能性はあるが、広く平等にチャンスが与えられると多くの生徒の意欲につながり、将来の進路へ選択の幅が広がるため。
- ・選択肢が増えるのはよいことだと思う。ただ、人気のある地域の学校に人が集中しすぎているのは改善してほしいと思う。
- ・選択肢も広がるので良いと思いますが、その分高校の人気度がわかりやすくなってきている様にも思います。理想を言えば、各高校に他にない魅力がもっと表れてほしいです。
- ・子どもにとって選択肢が増えるということなので、良い事だと思います。ただ、JR沿線に多くの高校があり、JR沿線から遠方に住むものにとっては、選択肢がいまひとつ広がっていない現状があります。自治体によってJR以外の公共交通機関の有無、発達度が大きく異なり、高校への通学時間、子どもの負担を考えると選択肢は広くない地域もあると考えます。
- ・県内すべての高等学校の中から選ぶことができるのは大変素晴らしい事ではあるが、公共交通機関が発達していない地域の受検生にとっては、通学手段や通学時間を考えると現実的ではない。

< 【4】 中学保護者③④の主な意見 >

- ・自宅から近い学校を選びたいのに、その学校が便利な立地条件のため、倍率がすごく上がってしまい合格できないことが起きると困ります。
- ・すべての中学校が集中するようで子どもの行けるところが少なくなる。受検する高校が選べない子どももいる場合困る。
- ・選べる事は良いのだけど、その分、自宅から遠く、通学費が高い、時間がかかる問題もあるので、良いとはあまり思えない。
- ・大津地域の生徒が県内私立や京都の私立に多く流出してしまうから。
- ・ここ数年で少子化が更に進み、一部の地域への進学が集中したために定員割れして統廃合される学校が出てきたように思います。地域の活性化という点でも、親の負担という点でも、全県一区は問題があるように思います。
- ・そもそも学区制が敷かれた目的(受検競争や格差の是正)がおろそかになっており、教育の普及と機会均等という目的にはそぐわないし、地域に根差した人材を育てるという事柄にも反している。このため、われらの高校という地域意識も薄れ、やむをえず長距離通学を強いられている生徒さんもいる。

中学3年生の進路選択に関するアンケート 数値

【中学3年生結果】

中学3年生	回答総数	【1】3つ以内								【2】4つ以内												
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
人数	1,171	557	756	422	534	353	383	133	14	476	282	423	499	357	175	197	377	693	381	38	98	23
割合%	100	48	65	36	46	30	33	11	1	41	24	36	43	30	15	17	32	59	33	3	8	2

中学3年生	回答総数	【3】2つ以内					【4】1つ			
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④
人数	1,171	695	779	205	400	45	922	189	21	20
割合%	100	59	67	18	34	4	79	16	2	2

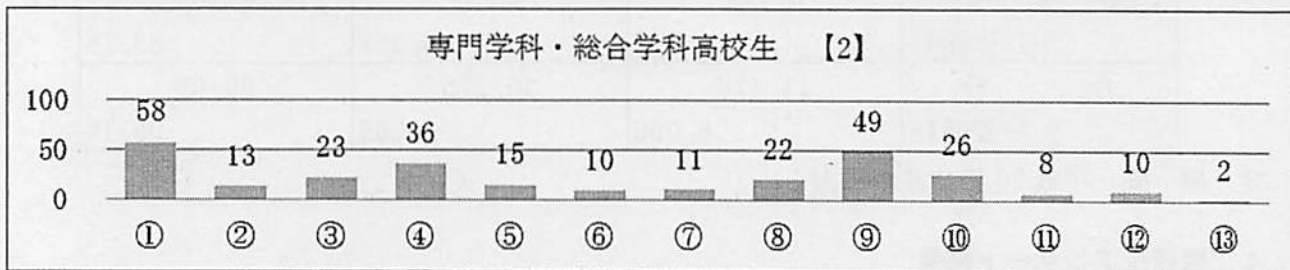
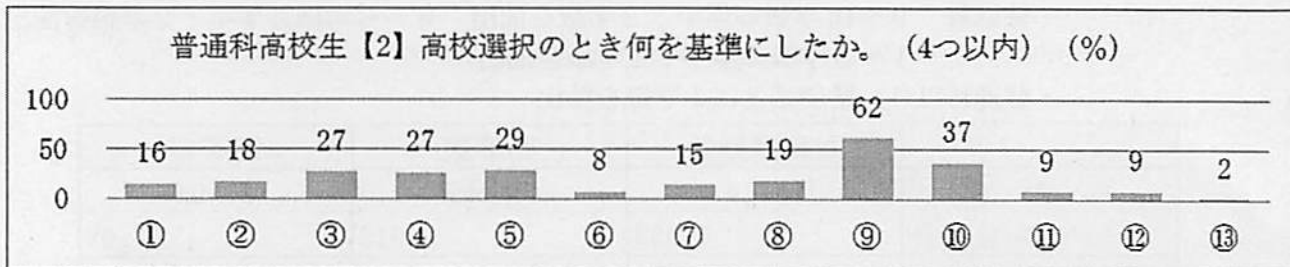
【中学保護者結果】

中学保護者	回答総数	【1】3つ以内									【2】4つ以内												
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
人数	1,021	568	684	315	247	215	204	379	85	65	568	43	259	588	306	57	277	459	685	422	30	18	16
割合%	100	56	67	31	24	21	20	37	8	6	56	4	25	58	30	6	27	45	67	41	3	2	2

中学保護者	回答総数	【3】2つ以内					【4】1つ			
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④
人数	1,021	819	390	118	451	42	586	344	64	8
割合%	100	80	38	12	44	4	57	34	6	1

【2】高校に入学する前、あなたの在籍する高校を選択する際に、主に何を基準にしましたか。次の中から4つ以内で選び、その番号を回答欄に書いてください。

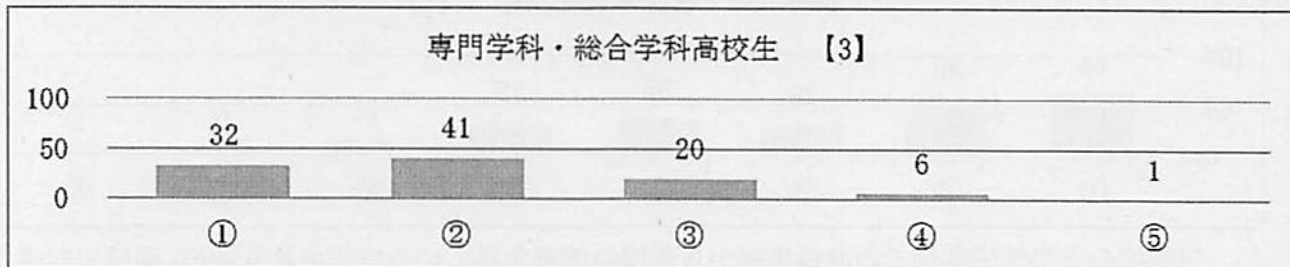
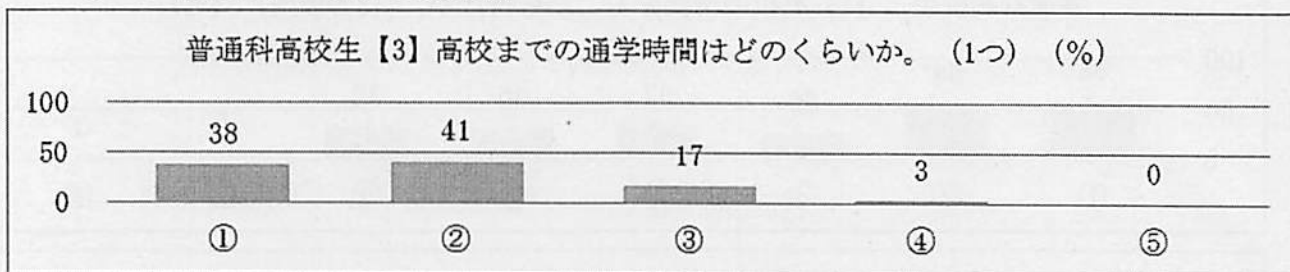
- | | |
|------------------------|-------------------|
| ① 学びたい学科、学習内容 | ⑧ 自分の適性 |
| ② 学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行など) | ⑨ 自分の成績 |
| ③ 部活動 | ⑩ 通学時間(自宅からの近さなど) |
| ④ 高校卒業後の進路 | ⑪ 家族・親戚の出身校または在籍校 |
| ⑤ 校風やイメージ | ⑫ 友人・先輩と同じ学校 |
| ⑥ 学校の施設・設備(新しさや広さなど) | ⑬ その他() |
| ⑦ 高校の立地(最寄り駅の近さや周辺環境) | |



- 自分の成績を考慮し、通学時間、部活動、卒業後の進路を考えて高校選択している。
- 普通科では、他の学科と比べて、⑤校風やイメージを高校選択の基準にしている生徒が多い。

【3】あなたの自宅から在籍する高校までの通学時間はどのくらいですか。次の中から1つ選び、その番号を回答欄に書いてください。

- | | |
|------------------|------------------|
| ① 30分未満 | ④ 1時間30分以上 2時間未満 |
| ② 30分以上 1時間未満 | ⑤ 2時間以上 |
| ③ 1時間以上 1時間30分未満 | |



- 普通科では、通学時間が30分以内の生徒が約40%で、1時間以内は約80%である。

< 【5】 高校生徒①②の主な理由 >

- ・行きたい高校に行けて楽しく高校生活が送れているから。
- ・いろいろな人と競い合い交流の幅も広がる。
- ・学力の同レベルの者が広範囲から集まり切磋琢磨できる。
- ・選択肢が広がる。
- ・居住地によって受検校を制限されたくない。
- ・個人の希望する進路が実現できるなら多少遠い学校でも選択肢が広い方が良い。
- ・自分が行きたいところに行けるので、そこを目指して努力するなど学習効果の向上に役立つ。
- ・自分の行きたい自分に必要な学校に行ける方が個人を尊重している気がする。
- ・学区によって高校数や高校の設備も違うので自由に選べないと不公平。
- ・自分に合った学校を選べる。違う地域の友達との交流で考え方の幅ができる。
- ・受検校が限定されると行きたい高校や行きたい大学まで限定されるかもしれない。
- ・新しい環境で道を切り開く力は大切だから。
- ・区域内から選ぶことになると自分の学力や適性に合っていない学校に行かなければならない場合がある。
- ・生活区域では出会うことのできない友人と出会える。より高いレベルの授業が受けられる。
- ・受検校を選ぶことは自分の将来に直結しているので選択肢が多い方が良い。
- ・自宅の近くに良い学校があるわけではないし視野を広げるとはとても良い。
- ・以前の制度では行けなかった高校に入学し楽しい生活を送っているから。
- ・自分の学力に合った高校を選択できる。部活の強い学校を選べる。
- ・生活圏以外で学習することは刺激になる。
- ・本当に行きたいのであれば通学時間が長くても構わない。距離で選択の幅が狭まるのはおかしい。
- ・自分の学力に合わせて自由に選択できるから。遠くの人とのコミュニケーションも図れる。
- ・進学したとき知らない人の中でもやっていける力が付く。
- ・通学時間が長くなったり友達がいない環境になるかもしれないが自分の学力に合ったところで勉強に集中できるから。
- ・区域によって制限されると部活などで行きたい高校があってもあきらめなければならない。
- ・狭い地域での学びは学力低下につながると思う。知らない人との友人関係を築き上げることは、グローバル化が進み人との関係を築くということが重要視される今、とても役立つ。ただ、遠方から通っている生徒への配慮はもっとあってもよいのではないか。
- ・過疎化が進み田舎の高校が減っていくのは良くないと思うが、自分のしたいことを優先すべきだから。
- ・自分に合った高校を選ぶには多くの選択肢が必要。反面、通学時間を考えると部活との両立が難しい。

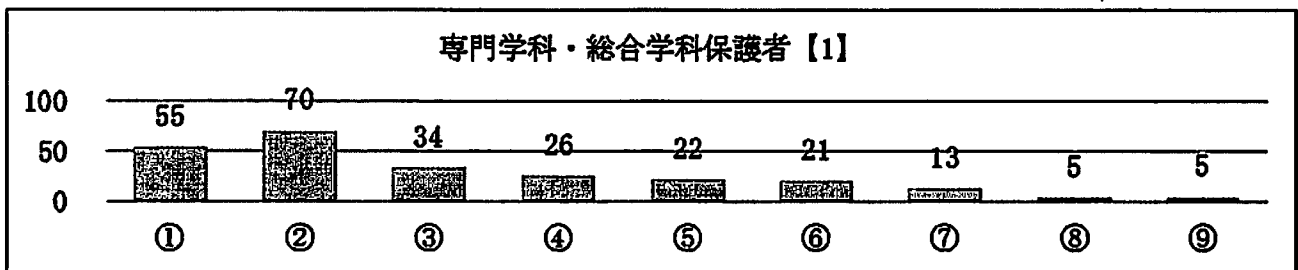
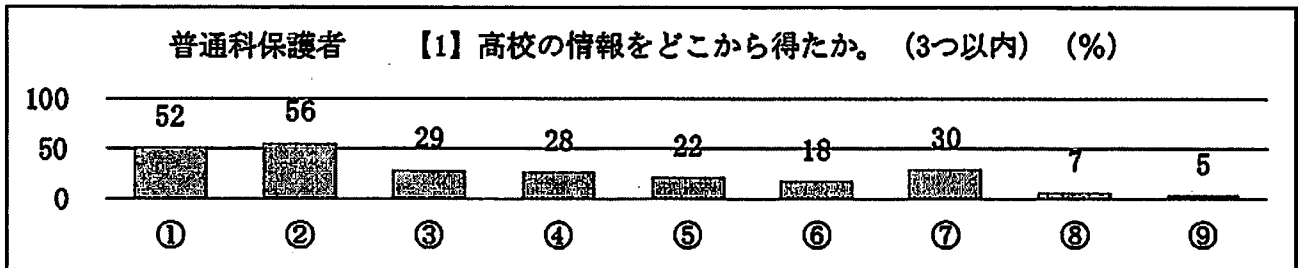
< 【5】 高校生徒③④の主な理由 >

- ・学区制にすることで各校の倍率が均等になる。
- ・地元の者が地元の高校を受検できないから。
- ・南部に人気が集まり北部の高校に活気がなくなる。
- ・遠距離通学の生徒の帰宅時間が遅くなる。
- ・近くに高校があっても遠くまで行かなくてはならないから。
- ・通学時間が長くて疲れてしまっただけでは意味がない。
- ・高校の序列化につながり高校間の格差が広がる。
- ・無謀な挑戦をしないで済む。

5 高校保護者アンケート結果

【1】あなたは、お子様が入学する前、お子様の在籍高校の情報は主にどこ（誰）から得ることができましたか。次の中から3つ以内で選び、その番号を回答欄に書いてください。

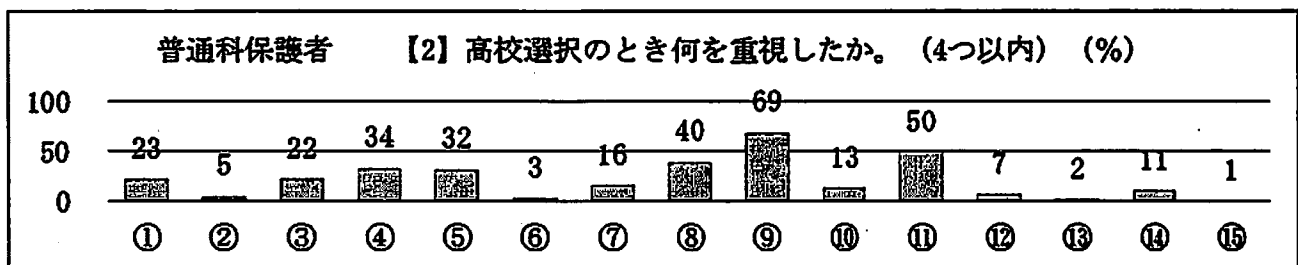
- | | |
|----------------------|---------------------------|
| ① 中学校の先生や中学校での進路相談 | ⑥ お子様の友人・先輩 |
| ② 高等学校での体験入学、学校説明会 | ⑦ 学習塾 |
| ③ 高等学校のホームページ、パンフレット | ⑧ インターネット(高校のホームページ以外の情報) |
| ④ お子様本人 | ⑨ その他() |
| ⑤ 家族・親戚 | |



- 高校での体験入学、学校説明会から高校の情報を得ている保護者が最も多く、中学校の先生や中学校での進路相談からも多くの保護者が情報を得ている。
- 普通科では、他の学科と比べて、⑦学習塾から情報を得ている保護者が多い。

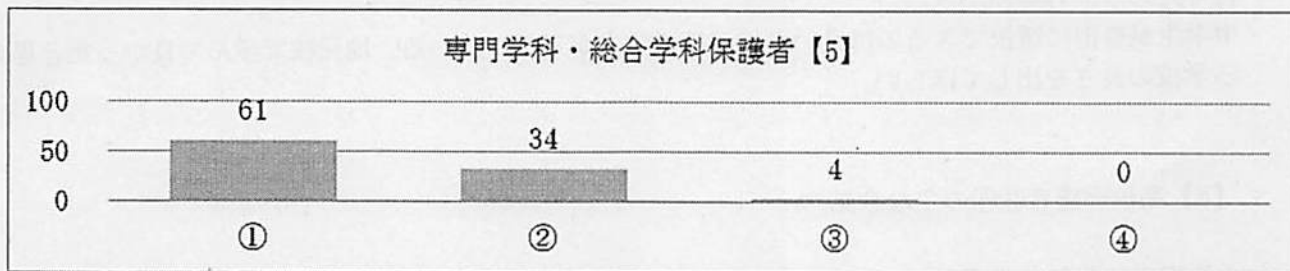
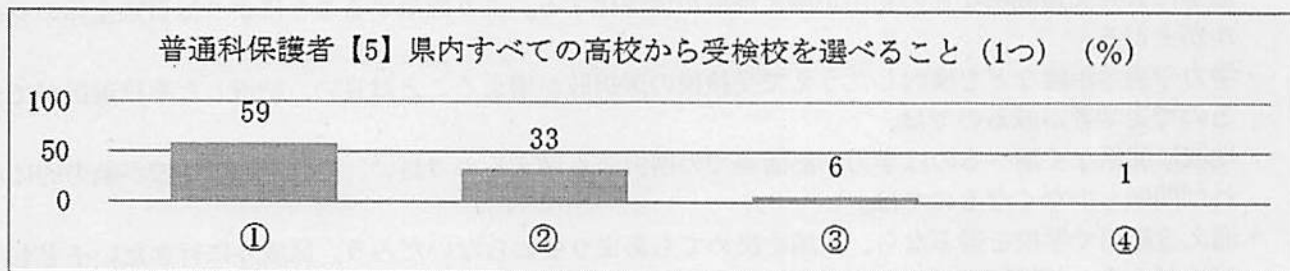
【2】あなたは、お子様が高校を選択する際に、主に何を重視しましたか。次の中から4つ以内で選び、その番号を回答欄に書いてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ① 学びたい学科、学習内容 | ⑨ お子様の希望 |
| ② 学校行事(文化祭、体育祭、修学旅行など) | ⑩ お子様の適性 |
| ③ 部活動 | ⑪ お子様の成績 |
| ④ 高校卒業後の進路 | ⑫ お子様の家族・親戚の出身校または在籍校 |
| ⑤ 校風やイメージ | ⑬ お子様の友人・先輩と同じ学校 |
| ⑥ 学校の施設・設備(新しさや広さなど) | ⑭ 経済的負担 |
| ⑦ 高校の立地(最寄り駅の近さや周辺環境) | ⑮ その他() |
| ⑧ 通学時間(自宅からの近さなど) | |



【5】滋賀県では現在、県内すべての高等学校の中から受検校を選ぶことができるようになって
います。あなたは、このことについてどう思いますか。次の中から1つ選び、その番号を
回答欄に書いてください。また、選んだ理由があれば書いてください。

- ① よい ② おおむねよい ③ あまりよくない ④ よくない



○ 約90%（①+②）の保護者が現在の通学区域の制度を肯定的に捉えている。

< 【5】高校保護者①②の主な意見 >

- ・あらゆる地域の子と関わりあうことで刺激になり心身ともに強くなる気がする。
- ・行きたい学校は居住地により制限されるべきではない。この学校で学びたいという本人の意思が尊重されるべき。
- ・行きたい高校に合格するため努力する。競争により県内の学力アップにつながる。
- ・親世代は湖南3分割の時代で大津の高校は狭き門だったが、今は自由に選べるので良い。特に大津に隣接している地域ではありがたい。
- ・学力の高い子どもはかためて教育をした方がよい。切磋琢磨すべき。選択肢が増える。中学時代の人間関係を断ち切りたい子どもにはこの制度はなくてはならない。
- ・希望する学校へ入学することができ将来の進路の可能性が広がる。
- ・受検希望の多い少ないは出るだろうが、すべての学校が改善努力を図りレベルアップにつながる。
- ・情報はいくらでも自分で集めることができ、他県と同様に住居地によって選択肢が限定されることなく受検できることは一般的であり、良いことだと思う。
- ・選択肢が増えた。地元だけではなく一段と広い世界に視野を向けることができる。
- ・選択の幅が広がる。本当に自分に合った学校選びができる。人間関係で苦しんでいる子は、全く新しい環境で新しい友達を作ることができる。
- ・中学までの人間関係を断ち切りたい人にとっては遠い高校へ進学したいと思うだろう。選択肢の幅は広い方がよい。
- ・本人に責任ない居住地により高校が制限されるのは良くない。親の世代は湖南3分割の時代で区域内と区域外で合格レベルが異なっていて不公平感を覚えた。
- ・学力、特色、部活動など各校様々な魅力を持っているので遠距離を承知で通いたい人もいる。
- ・県内の学校数が少ないので、区域に限定すると選択肢が狭まる。生活区域と違う区域に通うことで良い経験をしている。
- ・滋賀に住み税金も払っているので平等にチャンスがあって良い。子どもが望む学校で活動できるのが良い。

- ・ 中学時代の交友関係を断ち切りたいとき学区制だと限界がある。全県から選べることは、こういう点でも良い。
- ・ 選択肢が多くて良い。通学時間が長いならその時間を有効に使える知恵がつくし、短いなら帰宅後の時間を有効に使えると思う。
- ・ 通学に公共交通機関などの利用が増え地域が活性化する。より競争することにより滋賀県全体のレベルが上がる。
- ・ 学力や通学距離などを検討したうえで受検校の選択肢が増えることは良い。納得した高校選択ができるので退学者が減るのでは。
- ・ 地域に関係なく選べるのは学力や部活等での選択肢も増えるので良い。それぞれの学校が魅力的になれば問題も少なくなるのでは。
- ・ 通える範囲で学校を選ぶなら、区域を決めてもあまり変わらないだろう。区域外に行きたい子どもは行かだろ。 (県外私立など)
- ・ 中学生が自由に選択できるのは良いが地元校の学力が下がっている。地元校で学んで良かったと思える学校の良さを出してほしい。

< 【5】 高校保護者③④の主な意見 >

- ・ 大津近辺に生徒の志望が偏っている。県内高校の序列化が進んでいる。3学区制程度が適当か。
- ・ 自由に選択できる点では良いが一部の学校の倍率が高くなりすぎ競争が激化している。遠くの高校を選ばざるを得ない子もいる。
- ・ 通学時間を考えると範囲は限られてくるので2学区制くらいが適当か。
- ・ 交通の便等による不公平がある。全県一区になってから人気のある学校とそうでない学校の差が激しくなってきたのではないか。
- ・ 選択の幅は広がったが遠方に行くことにより通学時間が長くなりあまり良いとは思えない。どの学区においても同様のレベルで教育を受けることができれば毎日の生活や学校生活にもプラスになるのではないか。
- ・ 今の子どもたちは塾に通う子が多く学力の高い子は特定の高校に集中し、それ以外の高校は定員割れするところが多くなる。平均的にできないものか。
- ・ 選択の範囲が広すぎてかえって学校選びが難しい。交通費の負担が重くなる。誰もが大きな負担なく希望の学校に行けるよう考えてほしい。
- ・ どうしても南部に偏りやすい。北部は冬季の通学問題等もあり、希望する生徒や保護者が減るのは現実問題である。これまでは地域の中で特色ある取組が進められていたが、全県一区になってから過剰な進学率競争になっているのが残念。
- ・ 南進することにより学力格差は広がっているように思う。北部の高校を魅力ある学校とするため、設備面等の充実を希望する。
- ・ 選択の自由は良いが、いたずらに地元以外の高校を選ぶ傾向があり、若者が地元に着しない土壌を作っている。市外の高校に進学しなくても良いよう、地元高校が魅力ある学校になってほしい。
- ・ 定員割れをする高校とそうでない高倍率の高校との開きが大きく、結果、私立への進学を余儀なくされ、本来の公立高校の意味がないように思う。
- ・ 都市部優位の風潮を煽り南はすごく北はダメという潜在的な意識を根付かせ、将来地元に戻ってこないのではないか。そうであるなら、地域社会の崩壊を促していないかと危惧する。
- ・ 地域格差が広がるばかりで反対。文武両道と健康的な生活リズムを確保する意味でも以前の学区制に戻すべき。地元の学校で子どもたちの進路保障をすべき。

魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート 数値

【高校生結果】

高校生	回答 総数	【1】 3つ以内									【2】 4つ以内												
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
人数	普通	3,913	2,254	2,126	1,010	1,285	1,177	1,260	247	51	611	711	1,064	1,056	1,149	301	580	745	2,418	1,450	344	347	76
	専+総	1,632	990	944	472	571	526	249	91	40	941	218	371	593	252	162	176	351	802	430	126	163	35
	計	5,545	3,244	3,070	1,482	1,856	1,703	1,509	338	91	1,552	929	1,435	1,649	1,401	463	756	1,096	3,220	1,880	470	510	111
割合 %	普通	100	58	54	26	33	30	32	6	1	16	18	27	27	29	8	15	19	62	37	9	9	2
	専+総	100	61	58	29	35	32	15	6	2	58	13	23	36	15	10	11	22	49	26	8	10	2
	計	100	59	55	27	33	31	27	6	2	28	17	26	30	25	8	14	20	58	34	8	9	2

高校生	回答 総数	【3】 1つ					【4】 4つ以内												【5】 1つ				
		①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	①	②	③	④	
人数	普通	3,913	1,492	1,610	667	122	10	822	1,603	211	972	1,779	1,455	121	542	119	1,029	410	123	3,205	564	72	24
	専+総	1,632	527	662	327	95	10	290	383	550	401	545	421	716	181	195	245	257	44	1,256	295	29	15
	計	5,545	2,019	2,272	994	217	20	1,112	1,986	761	1,373	2,324	1,876	837	723	314	1,274	667	167	4,461	859	101	39
割合 %	普通	100	38	41	17	3	0	21	41	5	25	45	37	3	14	3	26	10	3	82	14	2	1
	専+総	100	32	41	20	6	1	18	23	34	25	33	26	44	11	12	15	16	3	77	18	2	1
	計	100	36	41	18	4	0	20	36	14	25	42	34	15	13	6	23	12	3	80	15	2	1

【高校保護者結果】

高校保護者	回答 総数	【1】 3つ以内									【2】 4つ以内															
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	
人数	普通	3,352	1,732	1,892	980	922	743	614	1,013	233	160	768	177	742	1,124	1,075	110	547	1,331	2,322	445	1,665	237	66	371	19
	専+総	1,378	755	967	464	364	306	289	183	64	72	830	50	284	546	213	62	140	411	998	289	473	100	37	118	12
	計	4,730	2,487	2,859	1,444	1,286	1,049	903	1,196	297	232	1,598	227	1,026	1,670	1,288	172	687	1,742	3,320	734	2,138	337	103	489	31
割合 %	普通	100	52	56	29	28	22	18	30	7	5	23	5	22	34	32	3	16	40	69	13	50	7	2	11	1
	専+総	100	55	70	34	26	22	21	13	5	5	60	4	21	40	15	4	10	30	72	21	34	7	3	9	1
	計	100	53	60	31	27	22	19	25	6	5	34	5	22	35	27	4	15	37	70	16	45	7	2	10	1

高校保護者	回答 総数	【3】 4つ以内												【5】 1つ				
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	①	②	③	④	
人数	普通	3,352	1,057	1,580	102	923	1,171	1,276	98	497	107	1,310	298	157	1,962	1,101	188	42
	専+総	1,378	396	295	380	361	327	389	642	193	227	338	217	52	834	462	56	6
	計	4,730	1,453	1,875	482	1,284	1,498	1,665	740	690	334	1,648	515	209	2,796	1,563	244	48
割合 %	普通	100	32	47	3	28	35	38	3	15	3	39	9	5	59	33	6	1
	専+総	100	29	21	28	26	24	28	47	14	16	25	16	4	61	34	4	0
	計	100	31	40	10	27	32	35	16	15	7	35	11	4	59	33	5	1